

トンネル被覆が不要で良食味な冬春どり 若掘りゴボウ「サラサラごんぼ」

豊前分場

1 背景、目的

12月から翌年6月にかけて出荷する福岡県産の『若掘りゴボウ（根長30～60cm）』は新鮮さをアピールするため青葉付きで出荷します。従来の品種「渡辺早生」では、冬になると低温で葉が枯れるので、1～3月に出荷する作型では、トンネル被覆が必要となるため、他の作型に比べてコストと労力を要します。

そこで、トンネル被覆が無くても葉が枯れにくく、根の肥大や品質が良い「サラサラごんぼ」を育成しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 「サラサラごんぼ」は、品質の優れる「渡辺早生」と低温期でも生育の優れる「てがる」の交雑により育成した、葉が枯れにくく、根の肥大や品質が良いゴボウです（図1、表1、表2）。
- 2) 品質は、「渡辺早生」に比べて根が白く、軟らかく、特に冬どり作型では甘味もあり、えぐみが少ないなど良食味です（表2）。
- 3) 9月に播種し2月に収穫する冬どり作型や10月に播種し5月に収穫する春どり作型において、トンネル被覆が無くても、トンネル被覆栽培の「渡辺早生」と収量は同等以上です（表1）。
- 4) トンネル被覆資材費約8万円/10a/年とトンネル支柱の打ち込みや被覆作業および被覆資材の開閉労力約50時間/10a（労働時間の10%）などが削減できます（データ略）。

3 主要なデータなど



図1 冬どり作型における地上部の生育

左：サラサラごんぼ、右：渡辺早生

注) 撮影日 平成23年2月23日

表1 「サラサラごんぼ」の収量性(平成23年)

系統・品種	冬どり (吸水種子低温処理)			春どり			
	根重 (g)	裂根率 (%)	収量 (kg/10a)	根重 (g)	抽苔率 (%)	裂根率 (%)	収量 (kg/10a)
サラサラごんぼ	56.3	0	1,880	50.9	0	0	1,700
渡辺早生 (トンネル栽培・慣行)	46.8	0	1,470	61.3	4	22	1,450

- 注) 1. 播種期および収穫期は、それぞれ冬どりが9月29日および2月15日、春どりが10月27日および5月14日。
 2. 渡辺早生のトンネル被覆期間は、冬どりが12月15日～2月15日、春どりが12月15日～3月15日。
 3. 吸水種子低温処理は4℃、30日間処理した。
 4. 収量は根重が30g以上100g未満で出荷規格を満たしたのものから算出した。

表2 「サラサラごんぼ」の外観および食味評価(平成23年)

作型	根の白さ	香り	軟らかさ	甘味	えぐみの少なさ	総合評価
冬どり	0.6	0	0.6	0.6	0.3	0.8
春どり	0.5	-0.2	0.7	0.3	0.2	0.4

注) 食味官能評価は、10人のパネル員で電子レンジ加熱したゴボウについて「渡辺早生」を基準(0)に‘-2’～‘2’の5段階で評価した。